

出張報告～パリ航空ショーとグローバル・クラスター・サミット～

プロジェクト・マネージャー 田島 嘉久

6月18日から22日にかけてフランスに出張して、パリ航空ショーとグローバル・クラスター・サミットの会場で世界各地の航空宇宙産業クラスターと意見交換などの交流を深めました。この機会で得た貴重な情報やネットワークを当地域の航空宇宙産業クラスターの今後の活動と発展に役立てたいと思っております。

パリ航空ショー

隔年にパリ郊外のル・ブルジェ飛行場で開催される世界最大級の航空ショーで、今年の第53回パリ航空ショーは7月17日～23日に開催されました。来年はロンドン郊外のファンボローで7月中旬に開催されます。

主催者発表によれば、今年のパリ航空ショーの規模は次の通りでした。

出展者：世界49か国から2453企業・団体

展示機体：140機

延べ入場者：31万6470人

期間中の総契約額：1400億ドル（1兆5120億円）

また、英の業界誌フライ特集によれば、期間中の航空機メーカーによる受注・仮受注の合計は866機に達しました。その内訳は次の通りです。

メーカー別内訳

エアバス：388機

ボーイング：232機

A T R（仮ターボプロップ機メーカー）：145機

エンブラエル：78機

三菱M S J：15機

その他：6機

機体サイズ別内訳

双通路機（広胴機）：62機

単通路機（狭胴機）：558機

リージョナルジェット：93機

ターボプロップ機：153機

受注先別内訳

リース会社：292機

格安航空（LCC）：263機

大手航空：227機

リージョナル航空：42機

不明（匿名）：42機

結果的に昨年のファーンボロ航空ショーの受注機数1464機に比べて4割以上も減りました。

ボーイングは、737MAXが2度の事故で運航停止中にもかかわらずIAGグループから大量200機を受注しましたが、期待されていた新型機NMA（ニュー・ミッドマーケット・エアプレーン）に関する新しい発表は行われませんでした。

エアバスは、中東のリース会社ALCからの発注を受けて、A321の超長距離型となるA321Xの開発決定を発表いたしました。この機体はNMAの競合機と言われています。

三菱航空機は、15機の受注を目指して北米の航空会社と覚書調印したことを発表いたしました。

様々な民間機や軍用機が展示された野外展示場では、ホンダジェット、三菱スペースジェット、防衛省の川崎P-1対潜哨戒機、川崎C-2輸送機などの日本勢も存在感を示していました。最近話題の「空飛ぶクルマ」の実験機もエアバスが展示していました。

屋内展示場では、世界各国の企業・団体に混じって、日本航空宇宙工業会（SJAC）、愛知県・名古屋市、東京都、東北地域などが集合パビリオンとして出展し、また旭金属や谷田合金などは単独出展して商談の機会を得ていました。

当C-ASTECとMOU締結の関係にある独ハンブルク・アビーション、仏エアロスペース・バリー、仏SAFEなどのクラスターに加えて、6月上旬に愛知県を表敬訪問したポーランドのアビエーション・バリーなどと最新情勢など意見交換を行って交流を深めました。



ポーランドとの交流



仏SAFEとの交流

三菱航空機のシャレーを訪問してスペースジェットM100の客室モックアップに座ってスペースジェットの名称通りのスペース（空間）の広がりを実感いたしました。

ダッソー・システムズのシャレーでは、最新の航空機開発管理ソフトの説明を受けました。また、独テッセンクルップ社のシャレーでは、TMXジャパン代表と一貫生産に必要な材料調達についての課題などを話し合いました。

グローバル・クラスター・サミット

6月21日、パリ市内のカナダ・ケベック州パリ事務所に、25か国から66人の航空宇宙産業クラスター関係者が参集しました。仏、独、英、スペインなど西欧州を中心に、ロシア、ポーランド、チェコなど東欧諸国、さらに米国、メキシコ、カナダ、南アフリカなど欧州圏以外に加えて、アジアからは日本、中国、マレーシア、シンガポールの4か国が参加しました。

講演では、エアバスを中心に欧州で展開されている「Clean Sky」プロジェクト、エアロ・モントリオール・クラスターの活動、チェコ共和国の中小企業の活動、欧州クラスターが連携して推進中の「EACP EuroSME Project」と「RADIAN Project」などが紹介されました

続いて、グループに分かれたワークショップ活動で、①「クラスターは、これからどのように変革するのか」 ②「デジタル化の波にたいして、どのようにして対処するのか」などの課題について議論いたしました。

その後の昼食会も含めて、世界各国の航空宇宙産業クラスターと意見交換して交流を深める良い機会になりました。



ワークショップのグループ

左からドイツ、ポーランド、アメリカ、マレーシア、トルコ、イタリア、日本（筆者）

以上